

事 例 集

平成 22 年度より、介護保険施設等で介護に従事する職員を対象とする「スキルアップ・福祉の仲間づくり研修」を実施している。

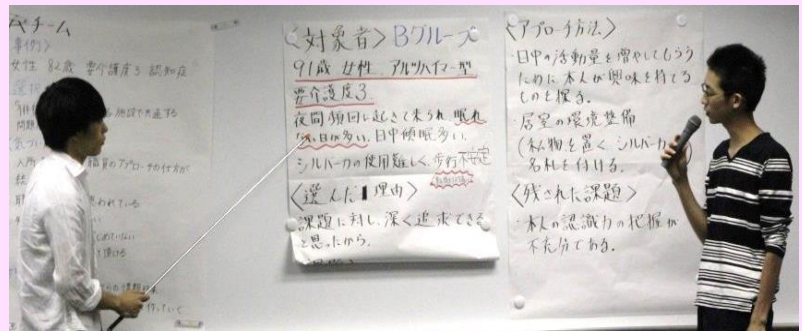
これは、職場のチームケアに必要な知識を取得してもらうとともに、他施設の職員と共同で自由な研究をすることで施設を超えた介護職員の仲間づくりを進めるもので、職員のスキルアップ、職場の活性化とともに、現施設で継続して働く意欲向上を目的としている。

平成 26 年度からは、より効率的な運営を図るという観点から市民福祉大学への委託事業として実施し、29 年度は市内の介護保険施設等で働く介護職員 18 名が参加、8 月から 9 月にかけて、大学教授や施設の中堅職員による講義・演習等の研修を受けてもらうとともに、4 グループに分かれて自由に設定したテーマで研究を進め、12 月 4 日には、研究の成果を披露する研究発表会を行った。今回の研究テーマでは介護人材の確保・育成について取り上げているグループが多く見られた。（各テーマは下記の通り）

- ① 未経験の新人職員に対する教育体制について
- ② 事故防止におけるヒヤリハットの重要性
- ③ 介護現場で働く職員の行き詰まりや悩み
- ④ 将来の夢、その選択肢に福祉を入れてもらう為に

【平成 29 年度スキルアップ・福祉の仲間づくり研修の概要】

- ① 講義・演習 8月4日（金）・21日（月）、9月23日（土）
- ② グループ研究 9月26日（火）～12月3日（日）
- ③ グループ研究最終確認 10月31日（火）
- ④ 研究発表会 12月4日（月）



「ギャンブル依存症」で生活できなくなった単身高齢者への支援

【対象者】 Aさん男性(81歳) 【世帯構成】 単身

【生活状況】 年金収入(22万円/2か月)があり、集合住宅(公営)に居住。
近隣在住の子どもが2人いるが音信不通。



【現状と課題】 年金が入ると生活費のことも考えずギャンブルに浪費したり、宗教団体の訪問(親切的な女性)があると家に招き入れ寄付をするなどして生活困窮に陥る。「ひとりで寂しい時がある」とこぼすなど、近隣住民や地域とのかかわりが薄く「孤独」を感じていることがわかる。

【支援】 ●「孤独」を緩和するため、ネットワークが民生委員やふれあいのまちづくり協議会につなぎ、地域活動や行事等への参加を促すなど近隣住民との関係づくりを支援した。
●週1回区社協に来会し、配布物の整理や使用済み切手の整理などのボランティア活動をしてもらうことで、Aさんの金銭等生活状況の把握を行った。
●福祉サービス利用援助事業(日常的金銭管理)の利用手続きに同行支援し、年金を計画的に消費できるように進めている。

【成果と今後の課題】

民生委員やふれあいのまちづくり協議会につないだことで、地域で顔見知りの関係ができ地域活動や行事に参加するだけではなく、現在は防犯パトロールやもちつきの準備など、**担い手**にもなっている。

複合的な課題を抱える8050世帯への支援

【対象者】 長男Bさん男性(50歳) 【世帯構成】 Bさんと母(80代)

【生活状況】 高齢の**母親**とアルコール依存症が疑われる**長男Bさん(無職)**。母親に認知症が疑われるため、外に出ないようにバリケードとしてゴミを山積みにした家の中で暮らしている。

【現状と課題】 Bさんが「母親が昼間人に会うと夜興奮して手がつけられなくなる」と言って、母親に会わせてくれないため安否確認ができず、対応困難ケースとしてあんしんすこやかセンターからネットワークに相談が入る。高齢の母親については健康面、衛生面、介護サービスの利用等が、またBさんについては健康面、生活状況、就労等と自宅のゴミ問題が課題であると思われ、関係機関それぞれの役割を整理することが必要である。

【支援】 ●介護サービスにつながっておらず、状況確認が不十分であったため、ネットワーク、生活支援コーディネーター、保健センター、あんしんすこやかセンターとともに自宅訪問する。⇒現況把握ができた
●高齢の母親についてはあんしんすこやかセンターが、Bさんについてはネットワークが主として関わり、連携して支援する。
●関係性を保ち信頼関係を構築するため、ネットワークが週1回の訪問を繰り返している。

【成果と今後の課題】。

訪問を繰り返すうちに、母親は比較的元気で長男なりに母親のことを考えながら介護をしていることがわかった。今後は①現状が適切な介護ではないこと、②Bさんの体調が心配(アルコール依存症)なこと、③家中にゴミが山積みなことについて、Bさんが課題として受け入れ、改善できるようBさんの気持ちに寄り添いながら関係機関と一緒に取り組む。

特例認定特定非営利活動法人まなびと（H29.8.17 特例認定取得） ～学びを通じて多くの人がつながる社会を～

当NPOは、「地域の学び場づくり」をテーマに、平成26年1月に法人を設立しました。

子どもたちの学び場づくりを行う「放課後学びスペースアシスト」では、教科学習に限らない自由な学びと、一人ひとりの興味関心を引き出すコミュニケーションとを大切にしながら、子どもたちが「社会に出て、一人の人として輝くための学び方」を身に着けられるような場づくりを目指しています。

また、地域に住む大人の日本語非母語話者の為の日本語学習の場づくりを行う、「日本語教室だんらん」も運営しています。ここでは、海外からやってきて、言語面や環境面が原因で日本の中で限られた人としてしか関わる機会を持たない方に、“だんらん”という新しいコミュニティの提供と、自らの選択を広げることのできる力をつけるために日本語教育を行っています。

最近では活動開始以来積み重ねてきた経験を活かし、学習の支援だけでなく、より広い意味での学びを大事にしておうと、子どもたちの学び場と遊び場づくりを行う「神戸こども探険隊」を立ち上げたり、民間学童保育施設の運営にも着手したりしています。

私たちが目指しているのは、どんな環境にあっても、学ぶ気持ちを得るための人との関わりを誰もが当たり前手にできる社会です。既存の教育において取りこぼされている人々の課題を解決することで、課題を乗り越えた彼らが、その時の社会に足りない新しい価値を生みだせるような人に育つ、そんな地域社会を当たり前にしていきます。



特例認定特定非営利活動法人まなびと
理事長 中山迅一さん

当NPOは、「学びの主体性と協調性」に重点を置いています。活動には多くの大学生が関わり、「学び合い」を実践しています。大学、企業、地域団体など、主体的に学び、協力して物事を成し遂げる人材の育成に関心がございましたらお気軽にmanabitojimukyoku@gmail.comまでお問合せ下さい。



放課後学びスペースアシストの様子



日本語教室だんらんの様子

誰でも神戸の旅を楽しめるために～ユニバーサルツーリズムのススメ
神戸ユニバーサルツーリズムセンター(NPO法人ウィズアス)

平成29年度採択団体の紹介

「ユニバーサルツーリズム」という言葉を聞いたことはありますか。神戸で15年以上、車イスを利用する方々、何らかの障がいの為に外出することをあきらめていた方々、ご高齢の方々への神戸の観光をすすめているのが神戸ユニバーサルツーリズムセンター(NPO法人ウィズアス)です。障がいのある方も、そのご家族もいっしょに神戸の旅を楽しむため、必要な場所と時間に介助者を派遣することや、利用しやすいお店や施設などの情報が詰まったユニバーサル地域情報誌「びと」の発行、神戸どこでも車いす事業(無料車いすレンタル)に取り組んできました。今年度はさらに、須磨水族園、王子動物園、神戸動物王国、北野工房、舞子プロムナードへ車いすに乗って利用する動画を作成し、より神戸の施設の利用しやすさを伝える準備に取り組んでいます。動画の撮影などを通じて車イスを利用する方々の視点で学ぶことで、誰もが心地よく利用できるユニバーサルな環境への改善も各施設の方と進めています。

☎ 078-381-6470 ✉ info@wing-kobe.org

神戸 ユニバーサルツーリズム

検索



神戸ユニバーサルツーリズムセンター(NPO法人ウィズアス)
代表理事 靱本 長利さん

旅行に行って安心安全に滞在・旅できる街は、そこは住みたいと思えるような街。2020年オリンピックパラリンピックを契機に、自由に旅ができる環境、たくさんの笑顔に出会える機会がさらに増えていくことで、神戸誘客、移住を希望される方が増えていくことを願っています。



神戸ユニバーサルツーリズムセンターの外観



王子動物園での撮影の様子

※きずな KOBE 第 17 号より

実技型料理教室でプロの味を地域にお届け！

－ほっとかへんネット神戸・北の取組み－

「地域の課題をほっとかへん！」――その想いのもとに社会福祉法人が手を取りあい、各区でスタートした「社会福祉法人連絡協議会（通称：ほっとかへんネット）」のこのたび、北区の「ほっとかへんネット神戸・北」が、地域の一人暮らし高齢者が集まる給食会の調理ボランティアを招いた料理教室を開催しました。

社会福祉法人がその人“財”を活かし、地域活動を応援するこの試み。各法人のシェフや管理栄養士など食のプロが講師役として地域のために大活躍！

腕を振るうシェフは、ANA クラウンプラザホテルで総料理長を務めた経歴をもつお方。そのプロの技を、静かにじっと見つめるみなさん。

実技の場面では「先生！これでええの？」とアドバイスを求める様子も。



教わったレシピのひとつ「かぶのコンポート」。ザクロシロップの甘みにカブのジューシーさがマッチして、まるで果物のような仕上がりに。

「ご高齢の方のために和食中心にしとったけど、これなら食べられるなあ」と評判は上々。洋のレシピが参加者にとって良い刺激となったようです。



“おいしい”笑顔が“嬉しい”笑顔に

－三井住友銀行 神戸営業部の取組み－

市内の障がい者施設でつくられた商品のアンテナショップ「神戸ふれあい工房」。

その販路拡大にと、このたび三井住友銀行神戸営業部様がオフィス内での出張販売にご協力くださいました！



休憩スペースの一角をお借りした販売会。

商品のラインナップは、この日のために考えた選りすぐり。たくさんの方に足を運んでいただき、実際に商品を手にしていただける機会となりました。



売上げは、作り手の工賃として障がい者のくらしを支えます。食べた人の“おいしい”が作った人の“嬉しい”になる。そうしてまちが笑顔で満たされることを目指して、ふれあい工房はあなたのところへ伺います！